

第46回基本方針策定タスク 議事録

1. 日 時：平成 27 年 3 月 12(木) 14:15～17:00

2. 場 所：日本電気協会 4 階 C 会議室

3. 出席者：(順不同, 敬称略)

出席委員：越塚主査(NUSC 幹事/東京大学), 関村(NUSC 委員長/東京大学), 新田(NUSC 副委員長/日本原子力発電), 波木井(NUSC 委員/東京電力), 荒川(日本電気協会), 大山(原子燃料分科会/東京電力), 渡邊(品質保証分科会/原子力安全推進協会), 小嶋(運転・保守分科会/日本原子力発電), 阿部(放射線管理分科会/日本原子力発電), 上山(安全設計分科会/関西電力), 山田(構造分科会/中部電力) (11名)

代理出席：山崎(耐震設計分科会/JANSI・白井代理) (1名)

事務局：沖, 美馬, 田村, 富澤, 井上, 飯田, 志田(日本電気協会) (7名)

4. 配付資料

- 46-1 基本方針策定タスク委員名簿
- 46-2 第 45 回基本方針策定タスク議事録(案)
- 46-3-1 第 2 回原子力規格委員会シンポジウム(案)
- 46-3-2(1) 技術評価対応要領の策定について
- 46-3-2(2) 日本電気協会原子力規格委員会技術評価対応要領(案)
- 46-3-2(3) 日本機械学会発電用設備規格委員会技術評価対応要領
- 46-3-3 第 40 回基本方針策定タスク議事録についての質問および回答案について
- 46-3-4 平成 26 年度活動実績及び平成 27 年度活動計画(案)
- 46-3-5 平成 27 年度各分野の規格策定活動(案)
- 46-4-1 JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法(2013 追補版)」の技術評価対応状況について
- 46-4-2 原子力規格委員会所掌規格の誤記確認の状況について
- 46-4-3 学協会と原子力規制委員会の意見交換会の実施結果について
- 46-4-4 規格策定作業におけるデータの管理について
- 46-4-5 平成 26 年度各分科会活動報告

5. 議事

(1) 定足数確認

主査による代理出席者の承認後, 事務局より, 本日の出席委員は代理出席者を含めて 12 名であり, 会議開催条件の総数 2/3 以上を満たしていることが報告された。

(2) 前回議事録確認

事務局より, 資料 46-2 に基づき, 前回の第 45 回議事録(案)の説明があり, 正式な議事録とすることを確認した。

(3) 審議事項

1) 第 2 回原子力規格委員会シンポジウムの開催について

事務局より, 資料 46-3-1 に基づき, 第 2 回原子力規格委員会シンポジウム(案)についての説明があった。今回出た意見については, 事務局で検討することとした。主査より, シンポジウムは 6 月 4 日の開催予定であるので, 来年度初めに案内を出したいという発言があった。

(主な意見)

- ・通訳の記載がないが, 電中研所長の講演のみ通訳を付けるのか。
- 全てに通訳を付けるかについては予算等の制約があるが, 講演とパネルディスカッションのところには同時通訳を配置することを考えている。

- ・今回は、今の時期に即した自主的安全性向上と民間基準の整備という副題にしたが、第1回のシンポジウムで実施した議論やパネルディスカッションにおいてどのような発言・意見が出ていたかについて確認してほしい。

→拝承

2) 技術評価対応について

事務局より、資料 46-3-2(1)～(3)に基づき、JEAC/JEAG に対する規制庁の技術評価対応についての説明があった。

(主な意見)

- ・技術評価対応を実施すると、様々な資料を提出・配布することになる、検討会の委員が直接やり取りすることも考えられるが、事務局を通して提出することになるのか。

→この資料には記載していないが、現在実施中の JEAC4201 の技術評価と同様に、事務局を介して資料を提出するものとする。

また、事務局の役割について記載がないので、対応者(検討会等)と事務局の役割が分かるような図・表等を追記することで検討する。

- ・資料 46-3-2(2)には、日本機械学会が作成した資料 46-3-2(3)「技術評価対応要領(案)」に記載がある参考資料が抜けている。電気協会として参考資料(1)～(3)は記載したほうがよい。

→拝承

- ・資料 46-3-2(2), 3/7 頁の対応要領として、「3.2 規制当局とのメール等」という記載がある。やり取りの方法の一つとして入るのは分かるが、要領の中に、メールという言葉が項名称として記載されることには違和感がある。

→「3.2 規制当局との連絡」、あるいは「3.2 規制当局との書面等」に変更することが考えられるが、検討して修文する。

3) 外部意見対応について

事務局より、資料 46-3-3 に基づき、第 40 回基本方針策定タスク議事録についての質問および回答についての説明があった。

(主な意見)

- ・2 頁、【回答 3】の記載は、「また、技術的な内容を明確化するために原子力規格委員会および分科会については録音を行っておりますが、基本方針策定タスクについては録音を行っておりません」に修文すること。

→拝承

4) 平成 26 年度活動実績及び平成 27 年度活動計画について

各分科会幹事より、資料 46-3-4 に基づき、平成 26 年度活動実績及び平成 27 年度活動計画についての説明があった。

(主な意見)

- ・16 頁、JEAC4629-201X 原子力発電所耐津波規程は「制・改・廃の見通し」欄が「平成 26 年度制定予定」になっている。平成 26 年 9 月 25 日に制定になっているので「平成 26 年度制定」に修文すること。

→拝承

- ・原子燃料分科会の新規規格として「JEAC 原子燃料管理規格」が入っているが、この活動計画は規格委員会で審議対象になっているのか。
- ・新規の規格を作るときに趣意書で説明することになるが、どのタイミングで実施するのか。
→3月の分科会で説明し承認された。
- ・電気協会の規格策定の際に趣意書を出すか、ルール化されているのか。
→分科会を作るときは書面投票を実施する必要があるが、他にルールはなく、新規の規格については次年度活動計画の中に入れることになる。
- ・講習会を実施することをお願いしていたが、品質保証分科会以外は記載がないので、計画があれば書き込むこと。また、(活用を見込む国内外成果等)について「なし」が散見されるが、記載できるものがあれば書いてほしい。エネ庁の自主的安全性向上・技術・人材ワーキンググループでは、ロードマップの作成をやっているが、そこに記載されているものは、活動計画にも記載をお願いしたい。また、バックグラウンドのデータは技術評価の際に必要な場合がある。
→構造分科会で、複数の規格をまとめて講習会を計画することを考える。この場で約束できないが、設備診断関係も3件計画することで検討する。
- JEAC4601「原子力発電所耐震設計技術規程」の2008年度の改定の際に講習会を実施していたか調べてみる。
- ・右欄の「整備計画」に○が付いている規格は、規格類協議会でまとめた整備計画の対象に合致しているか確認すること。
- 拝承

5)平成27年度各分野の規格策定活動について

事務局、分科会幹事より、資料46-3-5に基づき、平成27年度各分野の規格策定活動についての説明があった。

(主な意見)

- ・特になし。

(4)報告事項

1)JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法(3013 追補版)」の技術評価対応状況について

事務局より、資料46-4-1に基づき、JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法(3013 追補版)」の技術評価対応状況についての報告があった。

(主な意見)

- ・特になし。

2)原子力規格委員会所掌規格の誤記確認の状況について

事務局より、資料46-4-2に基づき、原子力規格委員会所掌規格の誤記確認の状況についての報告があった。

(主な意見)

- ・3/3頁、JEAC4804-2014の「対応」欄に記載がないが、確認は終了していて、その結果対応は③である。

→修正する。

- ・1/3及び2/3頁、「JEAC4201-2007 原子炉構造材の監視試験方法」(2013年度追補版)については規制

庁の技術評価中であるので、備考欄にその旨記載すること。また、現在技術評価中であるので、それが終わるまでに誤記確認結果を出す必要がある。

→拝承。

- ・2/3 頁，「JEAC4111-2013 原子力安全のためのマネジメントシステム規程」の実施状況欄に「3/11 検討会で検討(2013 年度版)」と記載されているが，2009 年度版「3/11 検討会で検討(2009 年度版，2013 年度版)」に修正してほしい。また，結果は誰宛に提出するのか。

→拝承，提出先はタスクの主査宛に提出してほしい。

- ・構造分科会の確認結果を見たが，原因究明から見ても対策案としては不十分であると思っている。新旧対照表を作り，分科会で審議したものを，この場でしっかり検討してもらいたい。また，JEAC4203-2008 の「対応 ②」の公開の仕方について十分に検討すること。

→JEAC4203 の誤記は，規格の電子データの管理の問題であり，分科会で十分議論していなかった。

→これについては，本日のコメントを反映・修正し，次回の規格委員会に諮ることとする。

- ・誤記確認については，次の規格委員会までに各分科会は確認作業のスケジュールを出すことと理解していた。しかし，品証分科会は 2 規格しかなかったので，次回の規格委員会に正誤表とエビデンスを出すことで考えていた。その理解でよかったのか。

→その通りである。それを他の分科会とも共有してほしい。

- ・次回規格委員会は各分科会で確認スケジュール等が確認できたものを提出してもらうことになる。
- ・次回の規格委員会で JEAC4203 の正誤表が承認されると，すぐ発刊ということになるのか。

→発刊ではなく，正誤表をホームページに掲載することとなる。また，規制庁へ連絡する必要があるため，次回の規格委員会で承認された後に規制庁に行くことを考えている。

3) 原子力関連学協会規格類協議会報告について

事務局より，資料 46-4-3 に基づき，学協会と原子力規制委員会の意見交換会の実施結果についての報告があった。

(主な意見)

- ・PPT4 頁，「社会からの意見・批判がある場合・・・」について，JIS では規格を作るにあたって，意見等があった場合は，主な論点を解説等に記載することになっている。学協会の規格として考えると，規格で論点として残されたものを残していくというプロセスについても，今後議論するべきであると思っている。規格策定の中で，議事録の中で残している場合に透明性の確保は残っているが，規格の中に取り込むことが可能であるか，あるいは意図的に排除する形になっていないのかということについて検討してほしい。

4) 規格策定作業におけるデータの管理について

事務局より，資料 46-4-4 に基づき，規格策定作業におけるデータの管理についての報告があった。

(主な意見)

- ・本件について，各分科会に紹介し議論する。

5) 平成 26 年度各分科会活動報告

各分科会より，資料 46-4-5 に基づき，平成 26 年度各分科会活動報告があった。

(主な意見)

- ・特になし。

以上